

# はじめに

受験科目の漢文には、センター試験に代表される選択式の設問と、国立二次試験に代表される記述式の設問とがある。私大入試は、以前は選択式の設問一辺倒であったが、受験生の減少にもなつて記述式の設問が増える傾向にある。

記述式の設問では、「説明（内容・理由・趣旨）」「現代語訳・解釈」「書き下し」の設問が多いが、その他に「単語・熟語の読みと意味」「抜き出し」の設問などがある。

出題者が作成した解答を選ぶ選択式の設問に対して、記述式の設問の特色は、受験生が自分で解答を書かなければならない点にある。単純な知識問題である「単語・熟語の読みや意味」も正確に覚えていなければならない。また「書き下し」や「現代語訳」の問題の場合は、重要句形の知識があやふやでは完全な解答を作成することはできない。さらに傍線部との対応箇所を踏まえなければならない説明問題や抜き出しの場合は、問題文の大意や構成を正確にとらえることが必要である。

特に、「現代語訳」や「解釈」では、原文に対応しながら文脈に即して現代語に移し変えることが求められる。「説明問題」では、傍線部と対応する箇所を本文中から探し出し、その対応箇所を現代語訳して、さらに設問の要求に応じてまとめることが

求められる。

本書のねらいは、記述式設問の焦点となる「現代語訳・解釈」及び「説明（内容・理由・趣旨）問題」の取り組み方、解答の作成の要点を学び、例題・練習問題を通じて実際に自分で解答を書くことによって実力を錬磨することにある。本書が記述式の問題に取り組もうとする受験生の一助になることを願っている。

著者しるす

# 第一章 現代語訳・解釈

## 1 現代語訳と内容説明とはどう違うか

(1) 傍線部「父、為<sub>ス</sub>郷人、所<sub>ト</sub>殺<sub>ス</sub>。」を現代語訳せよ。

- a 父は村人に殺された。
- b 村人は父を殺した。

aが正答で、bは誤答。

現代語訳の場合は、受身形という原文の表現に即して現代語訳も受身の表現にする必要がある。  
bは内容は合っているが、受身の表現になっていない。

(2) 傍線部「父、為<sub>ス</sub>郷人、所<sub>ト</sub>殺<sub>ス</sub>。」とはどういうことか、説明せよ。

- a 父が村人に殺されたということ。
- b 村人が父を殺したということ。
- c 父が村人を殺したということ。

a・bはともに正答。内容が合っていればよい。cは内容が合っていないので誤答。

(1)では現代語訳において、(2)では内容の理解において、

為<sup>なる</sup> A<sup>ノ</sup> 所<sup>ところ</sup> □<sup>ス</sup>

Aに□される

という受身形の知識と「郷人」の意味が問われている。

なお、「郷人」などの言葉をどこまで現代語に置き換えるかについては、以下のように考えるとよい。

- i 「百姓<sup>ひやくせい</sup>」のように、重要単語として入試に頻出するものは、定着している訳語「人民」に置き換える。
- ii 「郷人」のように、現代語にない表現で、文脈から現代語の「村人」という表現に対応すると判断できるものは置き換える。
- iii 「君子」のように、現代語に置き換えるすると「才徳のすぐれた人」という説明的な表現となるものは、そのまま「君子」と用いたり、「立派な人」などと訳してもよい。
- iv 特に注に説明してあるものは、注をうまく利用して表現を工夫する。

記述のポイント 1

現代語訳・解釈に必要な基本句形と重要単語をマスターする。

## ▽▽▽文章構成 △△△

## 前半

郁離子……不肯舍也。

第一の話（鶏に執着して殺された狸のエピソード）

## 後半

郁離子……奚異哉。

第二の話

(a) 人之死貨利者、其亦猶是也哉。

第一の話と第二の話は同じである。

(b) 宋人……笑之。

第二の話（財貨に執着して命を落とした宋人のエピソード）

(c) 亦与狸奚異哉。

第一の話と第二の話は同じである。

前半は、おとりの鶏につられた狸（野生の猫）が罌にかかってもおとりの鶏を死ぬまで放さなかったという動物寓話（例え話）である。後半は、収賄で取り調べを受けている宋人の話。彼は罪を認めれば収賄で得た金品は没収されてしまうが、刑罰の規定により罰せられるだけで拷問で死ぬことはないとわかっていた。しかし、彼は金品を没収されなくなかったので、最後まで罪を認めずに命を落としたのである。

筆者はわかりやすい動物寓話（例え話）を並べることによって、財貨に執着して命を落としてしまう宋人の愚かさを強調し、財貨に執着してはいけないと強く戒めている。